資料 2-6

大山隠岐国立公園保護管理レポート骨子案

ステップアッププログラム SUP2030（案）で掲げる目標の達成のために、大山隠岐国立公園における現状を整理するとともに、実施された取組を見える化することで、計画・実施・評価・改善のサイクルを回す。また、構成員や地域関係者の間での情報共有に役立てるほか、広く国民に発信する。SUP に位置付けていない指標でも、課題の現状や取組の動向を把握するために有効なデータについては積極的に取り入れる。

今年度は、11 月の地域協議会（担当者会議）までに令和 7 年度までの SUP2025 の取組を整理して「令和 7 年度版 保護管理レポート」を試行的に作成し、２月の地域協議会までに「令和８年度版　保護管理レポート」を作成予定。骨子案は以下の通り。

【保護管理レポートの骨子案】

表紙

目次

1. はじめに　― 保護管理レポートの目的
2. 大山隠岐国立公園の概要
3. 大山隠岐国立公園の訪問者数の動向
   →環境本省がとりまとめたデータから、一人当たり支出額、滞在・宿泊日数、リピーター率、満足度など、SUP2030 に指標として設定した情報を引用掲載。

【大山隠岐国立公園の持続可能な利用に関する取組】

4. 受け入れ環境整備
   →年度ごと、地域ごとの施設整備状況等を示す。
5. 魅力的な滞在体験の提供：先端モデル事業
   →大山寺地区を利用拠点として検討を進めている先端モデル事業について紹介。
6. 　アクティビティ、ツアー
   →年度ごと、地域ごとに紹介する。人気の企画、新たな企画等は写真付きで紹介。
7. 情報発信
   →誘客・プロモーションに関して実施した内容を紹介（アプリ、動画コンテンツ、FAM ツアー等)。
8. 登山道・歩道の維持管理
   →登山者カウンター測定結果（年間月別人数、経年変化）を表、グラフで掲載。また、登山道の維持管理活動を地域ごとに掲載。

【大山隠岐国立公園の保全・再生に関する取組】

9. 生態系・景観の維持保全（森林・草原・湿原の再生）
   →山焼き、登山道維持管理など、保全の取組みを記載。また、自然共生サイト、国

立公園オフィシャルパートナーの取組を紹介。

10. 希少野生動植物の保護
    →地域ごとに取組を紹介。公開可能な情報のみとし、前述（9 章）と重複しない内容とする。
11. 野生鳥獣の生息状況
    →ニホンジカの生息域拡大や植生被害の状況、防除の取組（パトロールやカメラによるモニタリング）等を想定。クマへの注意喚起等にも触れる予定。
12. 環境美化

【大山隠岐国立公園の保護と利用の好循環実現に向けた体制構築】

13. 協働管理体制の構築
    →国立公園管理運営計画の検討状況、大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会、国立公園オフィシャルパートナーシッププログラム、大山隠岐国立公園鏡ヶ成保全再生活用協議会、ジオパーク推進機構等の体制や取組みを紹介。
14. 持続可能な財源確保
    →大山入山協力金、ふるさと納税・ガバメントクラウドファンディング、企業版ふるさと納税等を紹介
15. 自然環境保全に資する人材の育成
    →近自然工法を用いた登山道 WS、世界ジオパーク認定ガイド研修、山陰地域通訳案内士養成等の取組を紹介。
16. 保護管理に資する（関する）ボランティア等受入れ紹介等
    →蒜山自然再生協議会主催の一般参加者を募った保全作業、鳥取県大山キャリーアップ・ダウンなど、広く参加者を募る保全の取組。単発的なボランティア募集を含めて事例を基に受入れ活動、実施団体、申し込み等について紹介。

【大山隠岐国立公園の将来に向けて】

17. 大山隠岐国立公園指定９０周年の取組
    →100 周年に向けて開催するリレーフォーラム等を記載。
18. 今後の取組（令和 7 年度実施内容を踏まえた取組の方向性）
19. 裏表紙：事務所や窓口の紹介（または連携組織等）